

数値解析第14回 非線形方程式・ニュートン法

1. ニュートン法

非線形方程式 $f(x)=0$ の解を α , 初期値 $x_0 \cong \alpha$ とする. 変位 Δx の方程式

$$f(x_0 + \Delta x) = 0. \quad (1)$$

を考える. 解は $\Delta x = \alpha - x_0$ である ($\because f(x_0 + \underbrace{(\alpha - x_0)}_{\Delta x}) = f(\alpha) = 0$). 左辺はテイラー展開により,

$$f(x_0 + \Delta x) = f(x_0) + f'(x_0)\Delta x + O(\Delta x^2).$$

$|\Delta x|$ は小さいとみて, $O(\Delta x^2)$ を無視すれば, 近似方程式

$$f(x_0) + f'(x_0)\Delta x = 0$$

を得る. これを解いて, (1)の解 $\Delta x = \alpha - x_0$ の近似式

$$\Delta x_0 = -\frac{f(x_0)}{f'(x_0)} \cong \alpha - x_0$$

を得る. これにより, 改良された近似解

$$x_1 = x_0 + \Delta x_0, \quad \Delta x_0 = -\frac{f(x_0)}{f'(x_0)}$$

が得られる. この操作を繰り返して次の反復法を得る.

<ニュートン法>

適当な初期値 x_0 を取り,

$$x_{k+1} = x_k + \Delta x_k, \quad \Delta x_k = -\frac{f(x_k)}{f'(x_k)} \quad (k=0, 1, \dots)$$

[例1] (平方根の計算) 正数 $a > 0$ の平方根 $\alpha = \sqrt{a}$ は方程式 $f(x) = x^2 - a = 0$ の正の解である. 適当な正数 $x_0 > 0$ を初期値としたニュートン反復は次のように書ける.

$$x_{k+1} = x_k + \Delta x_k, \quad \Delta x_k = -\frac{f(x_k)}{f'(x_k)} = -\frac{x_k^2 - a}{2x_k} \quad (k=0, 1, \dots).$$

少し整理してやると,

$$x_{k+1} = \frac{1}{2} \left(x_k + \frac{a}{x_k} \right) \quad (k=0, 1, \dots).$$

実際, $a=2$ のとき, $x_0=1.0$ を初期値に反復すると,

$x_1 = 1.5000\dots,$	1桁正しい
$x_2 = 1.41666\dots,$	3桁正しい
$x_3 = 1.414215686\dots,$	6桁正しい
$x_4 = 1.4142135623746899\dots$	12桁正しい

となり, x_4 は12桁正しい!

1回の反復で正しい桁の数が約2倍になる. これが2次収束の特性である. x_5 を計算すると,

$$x_5 = 1.414213562373095048801689623\dots \quad 24桁正しい$$

となり, 予想通りである.

$p > 1$ のとき, p 次収束では, 1回の反復で正しい桁の数が約 p 倍になる. //

2. ニュートン法の収束次数

△ 解 α は m 重解: $f(\alpha) = f'(\alpha) = \dots = f^{(m-1)}(\alpha) = 0, f^{(m)}(\alpha) \neq 0$. //

[定理1] ニュートン法で生成される近似列 $\{x_k\}_{k \geq 0}$ が単解 α に収束するなら, その収束次数は2である. //

(証明)

$$\begin{aligned} \lim_{x_k \rightarrow \alpha} \frac{x_{k+1} - \alpha}{(x_k - \alpha)^2} &= \lim_{x_k \rightarrow \alpha} \frac{\overbrace{x_{k+1} - \alpha}^{x_{k+1} - \frac{f(x_k)}{f'(x_k)} - \alpha}}{(x_k - \alpha)^2} \stackrel{L}{=} \lim_{x_k \rightarrow \alpha} \frac{1 - \frac{f'(x_k)^2 - f(x_k)f''(x_k)}{f'(x_k)^2}}{2(x_k - \alpha)} \\ &= \lim_{x_k \rightarrow \alpha} \frac{\frac{f(x_k)f''(x_k)}{f'(x_k)^2}}{2(x_k - \alpha)} = \frac{f''(\alpha)}{2f'(\alpha)^2} \lim_{x_k \rightarrow \alpha} \frac{f(x_k)}{x_k - \alpha} \stackrel{L}{=} \frac{f''(\alpha)}{2f'(\alpha)^2} \lim_{x_k \rightarrow \alpha} f'(x_k) \\ &= \frac{f''(\alpha)}{2f'(\alpha)^2} f'(\alpha) = \frac{f''(\alpha)}{2f'(\alpha)}. \end{aligned}$$

ゆえに x_k が α に十分近ければ, $|x_{k+1} - \alpha| \equiv \left| \frac{f''(\alpha)}{2f'(\alpha)} \right| |x_k - \alpha|^2$ となり, 2次収束が示された. //

[例2] 例1において, 誤差 $e_k = x_k - \sqrt{2}$ と $\frac{e_{k+1}}{e_k^2}$ を計算すると, 次のようになる.

$$\begin{aligned} e_1 = 8.6 \times 10^{-2}, \quad e_2 = 2.5 \times 10^{-3}, \quad e_3 = 2.1 \times 10^{-6}, \quad e_4 = 1.59 \times 10^{-12} \\ \frac{e_2}{e_1^2} = 0.333, \quad \frac{e_3}{e_2^2} = 0.353, \quad \frac{e_4}{e_3^2} = 0.354 \end{aligned}$$

[定理2] $m \geq 2$ で, ニュートン法で生成される近似列 $\{x_k\}_{k \geq 0}$ が m 重解 α に収束するなら, その収束次数は1, 収束率は $\frac{m-1}{m}$ である. //

[例3] $f(x) = x^2 = 0$ の解 $x = 0$ は重解である. $x_0 \neq 0$ を初期値としたニュートン反復は,

$$x_{k+1} = x_k - \frac{f(x_k)}{f'(x_k)} = x_k - \frac{x_k^2}{2x_k} = \frac{1}{2}x_k \quad (k = 0, 1, \dots)$$

である. $\{x_k\}$ は公比 $\frac{1}{2}$ の等差数列で, 収束率 $\frac{1}{2}$ で1次収束する. //

注意: ニュートン法の収束は速いが, 初期値が不適切だと収束しないこともある.

練習問題

例1において, 次のことを示せ.

(1) $x_{k+1} - \sqrt{a} = \frac{1}{2x_k} (x_k - \sqrt{a})^2$. (ヒント: $x_{k+1} = \frac{1}{2} \left(x_k + \frac{(\sqrt{a})^2}{x_k} \right)$)

(2) $x_k > \sqrt{a}$ なら, $x_k > x_{k+1} > \sqrt{a}$ を示せ. (ヒント: (1))

(3) $x_k > \sqrt{a}$ なら, $|x_{k+1} - \sqrt{a}| < \frac{1}{2\sqrt{a}} |x_k - \sqrt{a}|^2$. (ヒント: (1))